

会議録

○件名:令和元年度第一回小郡市行政改革推進委員会

○日時:令和元年9月27日(金) 10時00分～12時00分

○場所:北別館2階大会議室

○出席者 委員:右田喜章[会長]、木村淳[副会長]、木下綾子、西山友幸

大橋健治、寺崎和憲、(欠席:米倉啓介、内田真紀、江嶋小百合)

事務局:山下経営政策部長、熊丸経営戦略課長、小峰主幹、肥山企画主査、有富

1 会長挨拶

2 議題

(1) 小郡市緊急財政対策計画について

▼事務局:資料に基づき、小郡市緊急財政対策計画(令和2年度～令和4年度)について説明。

委員:(P7)一般会計財政収支試算において、令和元年度に投資的経費が非常に増加する見通しになっているが、その要因は何か。

また、令和元年度からの扶助費の増加要因は何か。

事務局:投資的経費については、令和元年度当初予算を計上している。今年度は市営住宅の建設費が約10億円程度となっており、総事業費増加の大きな要因と考えられる。扶助費について、今年度10月から保育所・幼稚園の無償化が始まり、それに伴う増加分の経費は国が賄うことになっている。しかし、令和2年度以降からは、無償化による経費は市が負担することになるため、扶助費増加となっている。その他経費は大きな要因はない。

委員:市営住宅については、10億程度かかるとのことだが、新築すると、建設費・維持費がかかる。例えば、民間の物件を活用(買い上げて貸す、など)した場合は、どうなるのか検討してほしい。小郡市は福岡市などと比べ、賃貸料も安いので、建設した場合と比べてランニングコストも変わってくると思う。

(P10)財政収支試算表の不足額について、数字上は黒字であっても、市等保有土地の売却分を除くと赤字には変わらないのではないか。令和2年度から赤字幅を徐々に減らしていけば良いが、財政健全化の取組としては弱い。このデータで

は、結局赤字幅は増えている。全面的に見直しが必要と感じる。また、基金残高が0になった場合、どんな支障があるのか。

(P9)財源の増加について書かれているが、これがどれくらいの信憑性があるのか。十分検討をしていると思うが、それならば責任者、責任部署を明確にするべき。また、人件費についても圧縮は難しいと思うが、業務について、昔からの体制を引き継いだままになっていないか、新しい体制(組織の統廃合)が取れているのか。従来の組織を残したままでは、削減はできないと思う。それに伴って、統廃合に伴う必要な人材育成をきちんとしていくべき。

時間外業務について、本当に必要かどうか。課長等が業務内容や業務の遂行能力をきちんと把握して指示をしているのか。職員ごとの業務計画が立てられ、業務が遂行されているか。

委員：時間外業務について、去年は11名が病気、4名が退職ということだが、子ども・健康部の新設によって、人件費・業務削減について効果はあったのか。

事務局：去年の7月の機構改革で、子ども・健康部を新設し、子育て支援課だけでもっていた業務を、保育所・幼稚園課と子ども育成課に分担した。元々、子育て支援課の業務量が多く、待機児童への対策、三国幼稚園の在り方など課題も多かったが、複数課で分担したことによって業務の負担は減ったと感じている。今一番残業が多いのは、人事法制課、教務課、総務課(防災)であり、今後の課題となっている。

委員：民間では、PDCAサイクルをするのが一般的だが、この委員会を年1回しか開催しないのでは、効果はないのではないかと。途中経過等も必要だと思うが、この会の在り方を検討してほしい。

また、事業についても必要な事業を審議するときに、何を減らすのかも同時に検討しなければ、全体の事業は減らせない。1つ採用するならば、2つ削除するなど、各事業そのものに対する審議会も必要ではないか。

委員：事業の項目ごとにいくら減っているのか、事業終了後の収支状況だけでなく全て金額を示してほしい。例えば、一律数%カット、というのは良くない。優先順位や必要・不要なことを精査すべき。

また、アクションプランについても、実績と計画があるが、何が課題なのかが、

分からない。抽象的になっているところがあり、分かりにくい。

委員：コミュニティバスについて、ほとんど乗っていないのを見かける。西鉄バスと契約していると思うが、収支決算はどうなっているのか。トータルコスト、市民満足度を高める工夫をしてほしい。バスの代わりに、タクシーチケット等で代替できるのではないか。タクシーチケットであれば、必要な分を使えるし、タクシー会社にもメリットがあると思う。

委員：確かに赤字ではあるが、運転免許証を返上した高齢者の方には、バスが必要。そのことに対して現在委員会が開かれている。

委員：バスは必要ではあるが、バス停が遠い場所に住む人は利用しない。路線は住宅密集地区を効率よく回るべき。先ほど意見があったように、タクシーチケット等で代用した場合による収支の違いや、市民満足度の調査等を含めて比較検討をしてほしい。

事務局：H13 頃に国の規制緩和により路線廃止が行われた。その際に元々あった市内の路線が全て撤退した。そのため、当時の市長が市民の利便性を確保するために、今のコミュニティバスができた（H16 あすてらす完成時）経緯がある。路線については、多くの公共施設を回り、市内も全て回るようにしていた。そのなかで、1日2、3本しかない路線が出来てしまった。しかし、公共交通なので黒字の路線だけ残すという訳にはいかないとあるところがある。現在、地域公共交通活性化協議会をつくり、路線の変更やコミュニティバスの利用料の見直し、自治会バスとの連携ができないかなど、調整をしている。新たな体系をつくる方針がある。

委員：(P9) 公共施設の検討について、開館日数、開館時間の削減については、地域コミュニティが重要視されているなかで、市民サービスの低下になるのではないかと。日数を減らすのはよくない。廃止するか、現状よりも良くするかを考えてほしい。

事務局：対象となるのは、文化会館、生涯学習センター、図書館、あすてらす、校区コミュニティセンターの予定。今回の見直しについては、あくまでも休館日を設けるということで、光熱水費・人件費を減らすのが主な目的になっている。ただし、コミュニティセンターについては地域の事情に応じて、コミュニティ推進課などにより具体的に検討している。サービス低下にならないように注意しながら検討していきたい。

委員：(P9) 積極的な企業の誘致とあるが、具体的にどんな動きはあるのか。

事務局：企業誘致については、筑後小郡インターチェンジ沿いの、産業道路周辺について2車線を4車線化することにより、条件も良くなるので、大きな企業が参入しやすくなっている。工業用団地を造成し、具体的に何社も参入してきている。今後も今隈地区について企業誘致を進めている。また、(仮称)味坂スマートインターチェンジについても、認可が下りているので、今後進んでいく予定になっている。整備されれば、条件も良くなり、企業誘致も進むと考えられる。

委員：税金を上げるために、固定資産税や住民税を増やす対策をしていると思うが、人口が増えた場合の水源は足りているのか。人口目標に対応できるのか。ぜひ、製造業にも対応できるようにして、さらに誘致をしてほしい。

事務局：水源については、山上水道企業団、筑紫野、県南水道企業団(久留米市)からもってきている。ダムもあるので耐容人口(約7万人)は満たしていると考えている。工業用水の確保は出来ていない。

委員：(仮称)味坂スマートインターチェンジに係る市の負担額はどのくらいかかるのか。財政収支に反映されているのか。

事務局：(仮称)味坂スマートインターチェンジ本体について負担はないが、既存道路の付替えなど、周辺道路の整備等については市負担となる。また、現在交渉中だが、県道を振替えることで県が整備することになることも考えられる。収支には、まだ反映されていない。

委員：味坂地域の開発は、財源確保として大きなエリアである。人口増については、鉄道の沿線際が多い。農地ではなく、山林が開発地となっている。今誘致に一番必要なのは、小郡市の良い立地条件を生かした施策である。農地の転用(開発)ができないのであれば、何が課題なのかをはっきりさせて、解決してほしい。沿線際の農地の転用(開発)が進まない理由を考えてほしい。

委員：計画全体について、これだけでは市民説明としては不十分。数字だけなので、もう少し具体的、詳細な数値がほしい。見直しはもちろん必要だが、項目をあげるだけでなく、年に何回も精査してほしい。精査していく専門部署が必要ではないか。赤字再建団体と変わらない状況なので、真剣に取り組む必要がある。項目に

よっては、市民サービスを低下させているものもある。また、ふるさと納税についても具体的な説明がほしい。

委員：企業の場合は、従来からあるものを減らさなければ、増やすだけでは倒産してしまう。(P10)土地の売却については、項目から外すべき。人件費、時間外業務の縮減についても、危機感をもって取り組んでほしい。

(2) 小郡市行政経営アクションプラン（平成 30 年度実績・令和元年度計画）について
▼事務局：資料に基づき、小郡市行政経営アクションプラン（平成 30 年度実績・令和元年度計画）について説明。37 項目。

委員：アクションプランは、市の業務について書いているものなのか。
人事評価や健康管理促進等の項目は当然のことである。項目が多くて見づらいので、工夫してほしい。
No.28 について市税滞納額は累積なのか。今後の対応と過去の滞納分はどうするのか。また、担当課は「関係各課」でなく全て課名を表記いただきたい。数値についても詳細を表記してほしい。

事務局：アクションプランについては、市の事業(業務)について書いている。
人事評価、職員研修については、以前の計画から引き継いだ部分もあり掲載している。取り組んでいることを知っていただきたいという趣旨になっている。
滞納額については、給与口座・不動産の差押え等で対応している。しかし、困窮されている方は差し押えしたとしても完納とならずに、時効を迎えてしまう場合がある。法律に基づいて、督促・催告等を行っているが、まずは不納欠損とならないために差押えを中心に取り組んでいる。

委員：年金世帯などは、差押えから生活保護世帯になってしまう問題も発生してくると思う。そうなると、市の負担が増えることになるので、対策を考える必要があると思う。

事務局：税金の滞納と生活保護の問題については、自立支援を促す対策を行っている。差し押さえたものは公売を行ったりしている。生活保護に至らないように、ただし税金はきちんと納めていただくように取り組んでいる。

委員：税金は大きな収入源であるので、滞納整理の改善が必要だろうと思う。本当に困っている人、支払う能力がある人の調査等をきちんとして、守るべきところは守っていただきたい。

委員：R2からの計画について「継続実施」が多いが、スクラップアンドビルドについて反映すべき。また、新市長の政策・方針はどのように反映されているのか。

事務局：前市長からの計画であったため掲載しているが、個別の項目については、現市長の方針も反映したものになっている。これとは別に、「つながるまち小郡アクションプラン」という市長のマニフェストを整理したものがある。施策について、財源が厳しい中でどのように進めていくかといった課題もある。

委員：減縮体制を3年間続けるとのことだが、職員のメンタルが委縮するのではないか。組織を健全に活性化していくために、職員全体が向上できる計画・目標にしてほしい。小郡市の持つ資源を生かして、インカムを増やすなど、ぜひ市民と一緒にまちづくりに取り組んでほしい。庁舎についても、市民のサービスを優先していると思うが、美化・刷新も考えても良いと思うので、夢のあるプランを作ってほしい。

委員：せっかくある小郡市の魅力を活用してほしい。かえる寺は外からの観光客も多いし、油屋もせっかく新しくなったので、市民と協力してまちづくりをしてほしい。

事務局：市長においても、わくわくするまちづくりに力を入れている。七夕プロジェクトや、魅力化計画等を進めている。少しずつ形になって見えてくると思う。

委員：小郡市の美観（市庁舎の見た目）は、まちの魅力に関わっている。できれば、市の建物についてはきれいにしてほしい。あまりにも寂しい感じがする。市職員の考え方はどうなのか。物を大切にしているのか。外部補修塗装の予算まで制限しなくてもよいのではないか。

事務局：庁舎については、きれいで明るい雰囲気も大事ではあるが、バリアフリー化も含む目標をたてて整備を進めていく必要があると感じている。また、庁舎建替えには、まだ基金が足りず課題が多い。

委員：事務所内について、個人の机の上に書類が多いと感じる。もう少し整理整頓等についても意識改革が必要と感じる。整理整頓ができてない所は業務がうまくいかないと思う。

事務局：たしかに、文書管理システム等を入れてはいるが、意識改革についてはもう少し必要であると感じている。そういう指導もしていく必要もあると思っている。

委員：人材育成に関して、整理整頓については仕事の効率化に一番必要であると思う。また、人事評価については、成果についての評価をどうしているのか。また、そういった評価もないと職員のやる気も起きないのではないか。自主研究グループは、今年度1つということだが、こういう意欲的な活動は今後もっと増やしてほしい。市の職員の気持ちが大事なので、部課長方にはそのような意識で指導にあたってほしい。

3 その他